

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

富士癒しの森研究所



Fuji Iyashinomori Woodland Study Center, The University of Tokyo Forest (FIWSC, UTF) Graduate School of Agricultural and Life Sciences, the University of Tokyo



2017



この地図の背景は,測量法第29条に基づく承認「平28情複,第1150号」を得て,国土地理院発行の電子地形図25000を複製したものである。

富士癒しの森研究所

1. 沿革と概要

富士癒しの森研究所は、浅間神 社と山中湖村民の所有地約12haの 寄付によって1925(大正14)年に 富士演習林として設立されました。 また、翌1926(昭和元)年から山 梨県有地を借り受けて、演習林と しての基盤を確立しました。その 後、国有地の山中湖村への譲与、 借入地の返地等を経て、現在は東 京大学所有地の約8haと借入県有 地の約30haを合わせた計約38ha からなります。2011(平成23)年 より「富士癒しの森研究所」として、 森林の保健休養機能を探求する道 を新たに歩み始めました。

2. 位置

本研究所は富士山麓、山中湖畔 のわが国有数のリゾート地にあり、 山梨県南都留郡山中湖村山中およ び平野に所在します。研究所へは、 富士急行線富士山駅あるいはJR 御殿場線御殿場駅から路線バス、 東京のバスタ新宿から中央高速バ スで、いずれも「山中湖村役場前」 で下車して徒歩約3分です。

3. 地況

山中湖畔の海抜高 990m から 1,060m のゆるやかな緩斜面に広 がっています。土壌は、火山性礫 質未熟土であり、表富士の海洋型 気候から裏富士の内陸型気候へ の移行地点にあり、湿度のやや高 い寒冷地です。過去 10 年(2007 年~2016 年)の年平均降水量は 2,259mm、年平均気温 9.6℃、最 低気温は-19.4℃です。例年一番 深い時で 50 ~ 60cm の積雪があ ります。

4. 林況

冷温帯上部にあたります。1920 年代に植栽されたカラマツ林が樹 冠を占め、広葉樹が混交している下 層にミツバウツギが優占する林分で

Fuji Iyashinomori Woodland Study Center



写真 1 富士山と山中湖 Photo 1 Mt. Fuji and Lake Yamanaka.



写真 2 山中寮内藤セミナーハウス Photo 2 The University of Tokyo Yamanaka Hall Naito Seminar House.

は、落葉広葉樹林へ移行する遷移が 始まっています。その他に、多様な 針・広葉樹植栽試験林分があり、約 150種の樹木が確認されています。

5. 教育

富士癒しの森研究所では、東京 大学をはじめとして大学や大学院 の実習および演習が行われ、学び のための貴重なフィールドとして 利用されています。また、林内に は東京大学運動会が運営する山中 寮内藤セミナーハウス、および本 研究所が運営する自炊宿舎、富士 癒しの森講義室があり、これらの



写真 3 長期滞在研究にも利用可能な自炊宿舎 Photo 3 Ability to accommodate long periods of research and equipped with cooking facilities.

実習、演習、課外活動および研究 室のゼミ合宿の拠点として利用さ れています。

また、後述する地域循環型「癒 しの森」プロジェクトに基づき、 その遂行過程を学生教育の場とす るほか、研究成果を、教育活動を 通して社会に還元することを目指 しています。

6. 研究

旧・富士演習林では、森林の保 健休養機能に着目した研究・森林 施業が行われ、知見が蓄積されて きました。富士癒しの森研究所で





写真 5 林内環境における人間の生理的心理的反応の計測実験 Photo 5 Measurement of physiological responses from a human subject.

写真 4 「癒しの森づくり」をテーマにした学生実習 Photo 4 Field exercise for students whose goal is to create "forest with amenity".

は、これらの知見を土台とし、地 域社会として保健休養機能に優れ た森林の実現のための仕組みづく り(通称:地域循環型「癒しの森」 プロジェクト)に貢献する研究に取 り組み始めました(図1)。この研 究は、機能、技術、社会の3方面 からのアプローチを採っています。

(1) 【機能】森林の癒し機能の評価

森林の保健休養機能は、森林と 人間との相互作用によって発揮さ れるものです。人間が森林空間よ り得る効果について評価するとと もに、保健休養機能の高い空間の 創造を試みています。また、この 空間創造過程を作業体験プログラ ムとして提供することで、森林で の作業自体が持つ保健休養機能に ついても明らかにしていくことを 計画しています。

(2)【技術】地域に根差した木材の 有効利用システムの構築

+分な木材収益が望めない状況 においては、地域住民が自発的に 森林整備に取り組む形態が想定さ れます。森林作業の経験が比較的 浅い人にとっても、安全かつ容易 に木材を搬出したり、木材を加工 したりするための技術について情 報収集を行い、それら技術を用い た作業に関する評価を行っていま す。また、地域住民にとって魅力 的な木材の有効利用の方法につい て研究を行っています。



写真 6 枯損木の有効利用例の展示 Photo 6 Display of effectively utilizing dead or damaged trees.



写真 7 地域住民を対象とした公開講座での森林作業体験 Photo 7 Experiential courses and lectures for residents on operating a forest.



写真 8 住民参加型の植生調査 Photo 8 Citizen participatory vegetation survey.

uji iyashinomon woodiana suquy



図1 癒しの森プロジェクト概念図

(3)【社会】地域循環型「癒しの森」づくりの地域への普及

地域循環型の森林整備が地域に 定着するプロセスとして、①異質 な主体間における共通認識の醸成 →②協議・交流の場の創出→③各 主体の特性に応じた協働関係の構 築、という展開が想定されます。 この過程を積極的に作り出すこと で、地域住民の意識変化、社会関 係の変化を探るアクション・リサ ーチ型の研究を計画しています。 上記課題に関わる研究を実証的に 行うために、「実証林」と呼ぶ実験 林分を用意し(図2)、所外の研究 者の利用も受け付けています。

7. 社会貢献

地域循環型「癒しの森」プロジェ クトで実施される森林作業を中心 に、体験型の公開講座として地域住 民に提供しています。また、検討過 程の森林作業もしくは調査活動を積





極的に地域社会に公開することを試

みるほか、地方自治体など地域内の

諸団体との連携を積極的に行ってい

ます。

写真 9 燃焼による枝条・かん木の処理にむけた試み Photo 9 Experiments to dispose branches and shrubs by the means of burning.

1. History and Summary

Fuji Iyashinomori Woodland Study Center (FIWSC) was established in 1925 as the name of The University Forest at Yamanakako. The total area is 40 hectares, of which part belongs to the University of Tokyo and part is trusted to the university by Yamanashi Prefecture. Since 2011, we changed our name to the 'Fuji Iyashinomori Woodland Study Center' (FIWSC) to make new progress in seeking the recreational and healing aspects of forests.

2. Location

FIWSC is located in one of the most popular resort areas in Japan. The address is Yamanaka and Hirano, Yamanakako Village, Yamanashi. It is about two-and-a-half hours from Shinjuku station, Tokyo, by highway bus. The bus stop is about 3 minutes from the FIWSC.

3. Land Condition

Our Forest ranges from about 990m to 1,060m a.s.l. The soil is immature, originating from volcanic gravels. Annual average temperature is 9.6°C, precipitation is around 2,259mm, the minimum temperature was minus 19.4°C over the last ten years (from 2007 to 2016). The maximum snow depth is usually about 50-60cm.

4. Forest Condition

The forest is located in the higher region of cool temperate forests. Some of the area is covered by stands dominated by larch in the crown story, being replaced by native broad-leaved trees. Various plantations of different tree species have been observed and about 150 tree species have been recorded.

5. Education

The FIWSC provides valuable settings; such as forest, grass land and lecture rooms for field training and learning exercises for the University of Tokyo and other universities and graduate schools. Additionally, Yamanaka Hall, called the "*Naito* Seminar House," is situated in our forest and serves as a base for hands-on learning, field exercises, and extra-curricular activities. We also provide accommodation facilities equipped with a kitchen for participants to prepare their own meals.

As shown in the diagram below, the lyashinomori Project aims to perform learning courses as well as produce results through field research. These aims and activities allow the Institute to return valuable educational lessons back to society.

6. Research

In what was formerly known as the University Forest at Yamanakako, much knowledge has been accumulated through forest management practices and research focused on the recreational functions of the forest. Using this knowledge as a basis, the FIWSC has started the "Iyashinomori Project." This project will create a social forest management system in which the local residents are committed to managing and utilizing the forest resources in order to make it a more comfortable place to dwell. The "Iyashinomori Project," as well as other community outreach programs, has adopted a three-pronged approach by researching its functional, technological, and societal features.

(1) [Function] Evaluation of the Forest's Function of Healing

The function of a recreational forest is exhibited in the interactions that humans have with the forest. While evaluating the effects that humans experience from these forest spaces, we are attempting to enhance the functionality of the forest's recreational aspects. Additionally, in the process of creating these spaces as experiential programs we plan to become more aware of how the act of managing the forest space provides the individual with a sense of healing.

(2) [Technology] Constructing a System for the Collection and Utilization of Wood adaptable for the area

In areas that do not have sufficient timber resources to provide economic revenue, local residents have taken it upon themselves to maintain the forests and collect firewood. We are engaged in gathering information and evaluating technology which will enable people to easily and safely collect and carry out timber, even if they have little experience working in a forest. In addition, we conduct ongoing research to create appealing and effective ways for area residents to use the forest and its resources.

(3) [Society] Regional Development. Spreading "The Iyashinomori" Throughout the Area

Recycling the maintained forests of the area takes root in the process of 1) creating a common sense of "The lyashinomori" throughout the community, 2) creating a forum for new dialogue and exchange, and 3) constructing partnerships and consensus between disparate parties. We are engaged in action-oriented research to educate local residents into becoming more involved in improving societal methods and understanding.

7. Contribution to Society

We are providing interactive and experiential lectures that are aimed at local residents, and which involve activities that may be carried out through the "Iyashinomori Project." We plan to disclose our activities on investigating forest technology and announce our survey findings to local residents. We will also coordinate efforts with other organizations in the community.



Fig 1 Conceptual scheme of the lyashinomori Project.

見学コース見どころ案内

① 実習・長期研究エリア 見学コース 標準時間 60 分

様々な樹種を造林した試験地や 長期試験地などがある。なだらか な傾斜を登り、小さな谷を渡り戻 ってくるコースで、ゆるやかなが らも地形の変化が楽しめる。

② 宿泊・利用施設エリア 見学コース 標準時間 50 分

宿泊施設の山中寮を起点に湖畔 沿いの森林内散策路と芝生広場、 グラウンド、草原、そして自炊宿 舎と講義室をめぐるコース。湖畔 広場から富士山がよく見える。

③ 癒しの森プロジェクト 実証林コース 標準時間 50 分

事務所を起点に癒しの森プロジ ェクトの解説を聞きながら実証林 を見学する、平らでコンパクトな コース。東大馬術部の馬(部員も) が夏季に合宿する馬房がある。



寒市な地域 どの 単体に 適した 樹種を 探索する目的で,海外や北海道の 樹種 を集めて 試験的に 造林し成長を計測し ている。



東屋のある湖畔広場 山中湖に面した芝生の広場。湖水と 緑の風景を楽しむことができる。東屋 の壁は枯損木を利用した薪原木を積み 上げたもの。



事務所

•

ご用の方はこちらをお訪ね下さい。 暖房は薪ストーブ。薪は林内の枯損木 で全てまかなえる。裏手に作事場があ り各種道具がある。



自然観察歩道
林内の歩道は樹木や草花の調査研究
だけでなく,野鳥などの野生動物観察

- にも活用される。写真は自動撮影で捉
- えたツキノワグマ。



長期生態系プロット
森林が長い時間をかけて自然に変化
していく姿を記録するため、50メー
トル四方の区画を設定し5年に1度

計測を続けている。



古在ヶ原(右は農学部図書館にある像) 第10代総長古在由直博士の名が由 来の草原。総長在任中に当演習林が開 設された。命名の経緯について詳細は

である。 不明である。



富士癒しの森講義室と自炊宿舎 開設当時の趣を残す築約90年の栂 普請による木造建築。大事に改修しな がら活用している。講義室の内装は研 究所のカラマツを活用した。



アカマツ林
年に一度林床の落ち葉をすっかりか
いて焚き火をすることで、すっきりし
た印象のアカマツ林の景観を維持している。



癒しの森プロジェクト実証林 管理状態の違う3区画を用意し, 景観や人の受ける影響,植生などを調 査している。写真はレーザ測量データ による3DCG画像。

当研究所には、森林生態系の解明や森林管理を検討するための試験地が数多く設置され、長期にわたる学術的な 調査を行っているため、一般の方の入林を制限しています。教育、研究、森林の維持・管理に対する皆さまのご理 解とご協力をお願いいたします。



当研究所での調査・研究や林内での見学には利用計画書の提出や利用届けが必要です。利用の2週間前までに電話・FAX など で申込みの上、1週間前までに利用申請書を提出して下さい。利用申請書はホームページよりダウンロードできます。

議義室

富士癒しの森議義室(定員約20名)を利用することができます。ご相談下さい。

宿泊施設

富士癒しの森研究所山中宿泊施設(自炊・定員3名)を利用することができます。 利用を希望する場合は「宿泊申込書」も併せて提出して下さい。 山中寮内藤セミナーハウスの宿泊を希望する場合は直接、東京大学運動会(TEL 03-5841-2511)へお問い合わせ下さい。 その他、周辺に民営の宿泊場所が多数あります。

研究所の所在地



交通案内

山中湖南湖畔、バス停「山中湖村役場前」下車、徒歩約3分

- 1. 東京バスタ新宿から中央高速バス新宿富士五湖線で約2時間15分
- 2. J R 中央線大月駅から富士急行電鉄で富士山駅下車
- 富士急行バスの御殿場行き/山中湖・平野行きで約 25 分
- 3. J R 御殿場線御殿場駅から富士急行バス河口湖駅行きで約40分
- 4. 東富士五湖道路山中湖インターチェンジから国道 138 号線を、自動車で約 10 分

東京大学大学院 農学生命科学研究科附属演習林 富士癒しの森研究所

〒401-0501 山梨県南都留郡山中湖村山中341-2 TEL 0555-62-0012 FAX 0555-62-4798

Yamanaka 341-2, Yamanakako-mura, Minamitsuru-gun, Yamanashi 401-0501

Tel. +81-555-62-0012, Fax. +81-555-62-4798

ホームページ http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/fuji/

E-mail: fuji@uf.a.u-tokyo.ac.jp

